

おおま

No. 100

平成31年2月1日発行

議会だより

初詣に旧年の感謝と新年の豊富を願う

平成31年元旦(午前0時10分)



主な内容 12月定例議会

○平成30年 第4回定例会

P 2

○原発特別委員会及び現地視察

P 3

○4議員が一般質問

P 4～7

○100号記念

P 8～9

○原子力サミット報告・編集後記

P 10

第4回 12月定例会

平成30年第4回定例会を12月7日開会し、
12月12日閉会しました。

平成30年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ3
031万円追加し、予
算総額を66億5624
万円とした。

歳入の主なもの

○障害者自立支援給付
費負担金、国・県合
わせて789万円。
○保育所運営費負担金、
国・県合わせて60
3万円。

○ふるさと応援寄付
金、371万円。

○介護保険特別会計繰
入金、1054万円。
○原子力発電所対策諸
費用、127万円。

歳出の主なもの

○ふるさと応援基金積
立金、371万円。
○ふるさと応援寄附金

用報償金、121万
円。

○下北地域広域行政事
務組合負担金、13
9万円減額。

○障害福祉サービス費
等給付費、1144
万円。

○重度心身障害者医療
費、150万円。

○障害者自立支援給付
費負担金の精算に伴
う償還金、395万
円。

○大間保育園運営費、
595万円。

○指定ごみ袋製作委託
料、100万円減額。

○除雪重機借上料、6
00万円。

○道路維持補修工事費、
266万円。

○機械器具費（ミニホ
イルローダー）、1
93万円減額。

○港湾改修事業負担
金、293万円減額。

○大間町消防団事務委
託料、119万円。

○庁用器具費（学校教
職員用パソコン）、
444万円減額。

○自動車借上料（大会
等参加バス）、11
3万円減額。

○予備費、728万円
減額。

国民健康保険 特別会計

国庫補助金償還金確
定に伴い199万円追
加し、予備費243万
円減額。

後期高齢者医療 特別会計

歳入歳出それぞれ82
万円追加し、予算総額
4754万円とした。

介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ9
54万円追加し、予算

総額6億6191万円
とした。

下水道事業特別会計

歳入歳出それぞれ10
万円追加し、予算総額
2億5356万円とし
た。

水道事業会計

支出の営業費用で29
万円減額、特別損失で
5千円を追加し、収益
の支出の総額を1億5
46万円とした。

監査委員の選任



住 所

大間町大字大間字下
手道36番地2

氏 名

松原 壽廣

生年月日

昭和25年2月13日

指定管理者の指定



1 施設の名称

・大間町立うみの子保
育園

・大間町地域子育て支
援センター

2 指定する団体

住 所

むつ市大曲一丁目
8番12号

氏 名

特定非営利活動法人

希望の友

理事長 千葉 良司

3 指定の期間

平成31年4月1日か

ら平成36年3月31日まで

12月5日開催

大間原子力発電所対策特別委員会



敷地内トレンチ確認 11月15日

※トレンチ

地質学において過去の活断層や液状化を調べる、溝・堀のこと

去る11月15・16日の2日間にわたり、新規制基準適合性審査に係る現地調査（13ヶ所）が行われた。15日は敷地内、16日は敷地周辺で、出席者は、規制委員会石渡委員他21名、電源開発(株)からは、浦島副社長以下が出席し、地質・地質構造について、内容確認を行ったと説明を受けた。



海岸浸食地形確認 材木 11月16日

報告・規制委員会現地調査

新規制基準適合性審査の対応等大間原発では26回の会合開催

25回目 2018年9月21日

津波

基準津波の策定のうち地震による津波のコメント回答等について



26回目 2018年10月26日

敷地の地質・地質構造

敷地の地質・地質構造のうち第4系中の変状の評価に関するコメント回答について

2018年11月15・16日

現地調査

新規制基準適合性審査に関する現地調査



12月5日、原特委員9名、行政では町長、副町長、教育長はじめ各課参与の出席を得、電源開発(株)による説明を受けた後、敷地内で地質構造の現地確認、説明を受けた。



原特委員会と行政側で
現地確認・説明受ける

一般質問



野崎 信行 議員
質問時間 60分

問十二

「中間養殖栽培センター」誘致について。

町長答弁

努めてまいりたいと考えています。

問十九

「大間病院会計」について。

町長答弁

電子カルテを導入する計画を進めておりますので、短縮に繋がるものと考えております。

問二十

町長は水産庁に対し、鳥取・千葉でのマグロ巻き網5cm四方の網を、30cm四方とするように要望すべきである。

町長答弁

連携をしながら対応してまいりたいと思います。

問二十一

各町内会で資源ゴミを回収し、販売。町内会・子供会に寄付するようすべきである。

町長答弁

現状ではかなり困難なことだというふうに考えております。

問二十四

水田の「ソーラー利用」について。

町長答弁

この制度は使えないということですので、ご理解をいただきたいと思えます。

問二十六

「大間原発避難道」・国土強靱化計画策定について。

町長答弁

調査検討をいたしましたと思えます。

問四十六

「函館～大間送電線」について。

町長答弁

これも町が答える立場にはございません。

問四十八

佐井村「こども議会」実施について。

町長答弁

関係機関の意向を尊重してまいりたいと思えます。

問五十三

「ピロリ菌」助成について。

町長答弁

助成制度の前に必要性を啓蒙してまいりたいと思えます。

問四

「八戸工業大学と大間町」の防災協定について。

町長答弁

検討していきたいと考えております。

問十

奥戸・向町「軌道敷道路」舗装について。

町長答弁

順次整備してまいりたいと思えます。

問十一

「浜町・浦道路・避難道路」浜町和住宅が行き止まりについて。

町長答弁

私有地であり、現状では道路整備は困難と考えます。

問十二

根田内バス道路が凸凹なので舗装すべきである。

町長答弁

財源確保の上、今後修繕する予定となっております。

一般質問



正根 秋雄 議員

質問時間 40分

町内環境ゴミ処理対策について

問一 高齢者の方はじめ住民の多くは、リサイクル料の負担が大きいと感じている。町として住民に寄り添った考えがないのか併せて聞きたい。

町長答弁 町内環境ゴミ処理対策についてであります。家電リサイクル法が平成13年4月1日より施行され、対象家電として4品目を指定しており、消費にリサイクル料を

庭にも家電があり、それに対応するには準備調査期間が必要になる。

再質問 ゴミ問題は将来的に大変重要な課題だ。町長の考えだけでなく、業者の話も聞いて、早めに議会に説明をしてもらいたい。

町長答弁 調査研究をした中で、どういった対応ができるか判断が残されると思いますが、ご理解をいただきます。

再質問 現在道路沿いに何十年も放棄して、風で飛んでいるのは空き家になるのか、それともゴミなのか。

町長答弁 空き家で個人の財産と認識しております。危険な空き家の所有者に対し、指導を法的な手続き等を含め、どう処分できるか調査を進めていきたい。

再質問 処理場についてだが、むつ市のアックスグリーンに行った場合、大分お金が必要との説明だが、三か町村で話し合っ

て、少しでも安い処理場を、検討するべきと考えるが。

町長答弁 下北広域で新たなゴミ処理施設の建設に向けて進んでいる。今の5市町村で

効果的である。町で施設を作ることについては、現時点で金額的なものは今把握できないが、様々な調査を実施しながら進めていかなければならない。

再質問 アックスグリーンの建設負担金及び使用負担金が今後もかかることを、町民に説明をして判断してもらう考えはないか。

町長答弁 今進めている計画の内容については、地域にも周知して提案するよう努力する。

したいと話されているが、現時点で具体的にどのように考えているのか聞きたい。

町長答弁 複合施設の考え方については、できるだけ早く旧庁舎や旧病院の解体を行い、地域住民の気軽に利用できる施設、町の

コミュニティや健康福祉の増進拠点として整備する。また駐車場を確保し、町民が憩える小公園緑地化等を進めていければと考えているが、最大のポイントは財源である。財源の確保に努力して早期の着手を目指していきたい。

再質問 早い時期にというが、何年後になるのか、町長の任期もある、1年以内とか2年以内とか判断は出来ないのか。また、財源として考えていた大間原子力発電所に関わる

建設が延びたのは、町に責任がない、会社の責任である。固定資産税も10年先なのかわからないので、会社から

借りても進めるべきだ。施設の建設についても町の考えでなく、老人クラブや町内会、また各学校の生徒など幅広く何を求めているのか聞いて進め、何年以内に実現とすると

はつきり、答弁をお願いしたい。

町長答弁 いくつか事業を実施していくことについては財源の確保が一番であり、これからさちつと早い時期に進めていき、色々な角度から意見を聞きながら進めていければと考えている。解体に関しても直ぐに着手できればと思います。

再質問 予算については役場庁舎建設基金6千万円の予算で取り壊しができる。早い時期と云うが、任期中に実現するのか。

町長答弁 私の思いもそういう思いであります。一つの事業だけで動いているわけではないので、様々な事業を見ながら努力してまいります。(記)正根

複合施設の考え方について

問一 旧役場庁舎や旧病院の跡地利用は、前から複合施設を設置

一般質問



岩泉 盛利 議員

質問時間 40分

国道338号線 奥戸バイパス 整備について

問一 下北市町村長、議会議長、下北選出の県議会議員で構成されている下北総合開発期成同盟会で、30年以上前から要望されている奥戸バイパス整備の進展を問う。

町長答弁 ご指摘のとおり、長年の要望にも関わらず進展していない奥戸地区の国道は狭隘な箇所が多く、交通安全上も優位される路線となっている。現在279号線のバイパス化に力点を置き要望しているので経過を見ながら、奥戸バイパスに移

行していければと考えている。

再質問 平成14年に県知事が奥戸の道路を視察し、航空写真測量等も実施されたが、その後の発展がない。奥戸バイパスの計画を改めて強く要望してもらいたい。

町長答弁 期成同盟会で縦貫道路を大間までの延伸要望を進めてきたが、いつ完成する目途が付かないことも含め、大間から災害に強く津波でも通行止めにならない279号のバイパス化に方針を変え要望していく。

再質問 宮下会長は総会で、道路、医療、教育の推進に取り組み、要望

を進めていくとのことだが、なぜか総会で大間からの避難道や奥戸バイパスの議論がない。奥戸バイパスを279号の避難道に繋げることで、奥戸や材木地区または佐井村の住民の避難が確保され安全安心に繋がると考えるが、

町長答弁 地域の皆さんは必要な事項である。

再質問 県では新たな核燃料税の条例を定め5年間で976億円と聞か、今後大間原子力発電所に

関わる核燃料税が県に間違いなく入ると考える。

町長答弁 核燃料税が決定したということですが、各自自治体への配分は検討中の情報であり、今後4市町村で県に要望していく。

再質問 大間オフサイトセンターの立地場所が大間町に決定を県の説明に首長が理解を示したことは残念だ。私は常々大間原子力発電所があつてのオフサイトセンターであると確信している。その発電所に方が一災害が発生した場合、大間町災害対策本部や関係機関がいち早く施設に辿りつくための道路、避難道の整

備を県や国に約束させるチャンスであり、関係機関に強く要望するべきと思うが。

町長答弁 オフサイトセンターにいち早く移動できる道路整備という角度から議会の皆さんと県に対し強く要望してまいりたいと思います。

大間町の漁業を 取り巻く認識と 今後の対応策について

問一 漁業生産高の現状と今後の見通しを含め、町内経済の動きを明確に捉えることが重要であり、そのためにも調査をすることが必要である

と考えるが、これらの調査に基づいた政策立案及び対策を考えておく必要があると考えるが。

町長答弁 町の漁業生産の現状はマグロの漁獲制限やスルメイカ等の不漁。奥戸漁協についてはコンブの不漁により大きく減少している。町内経済状況の調査については実施に向け今後何等かの事業に活用できないか検討している。

再質問 漁業生産高の現状についてはマグロの

規制が不漁に影響している答弁、私はマグロ漁に必要である餌のイカが獲れないのは大型巻き網漁業船の操業が原因である

と考えるが、何か良い対策はないものか。

町長答弁 マグロ巻き網やイカ等の乱獲の議論をされてから、かなりの時間を経過してきている。特に今年は大きく水揚げが減少している。私も全

国市町村水産振興協会の監事で今後国に強く要望する。

再質問 コンブの不漁については前の質問に対し、考えて行くとの答弁であったが、未だに進歩が見えない。現在種苗センターでコンブの種糸を作り漁協と協議をしながら進めて行くとのこと

で、奥戸漁協では試験的にやったと聞いたが、結果は分からない。私は県や国の補助事業を活用し、大々的に進めるべきだと思いますが。

町長答弁 コンブの種糸に関しては漁協でも長年にわたって取り組んできたが、成果が出ていない。今後どの方法がこの海域の中で優位な方法か、専門家に聞きながら

研究していきたい。

再質問 町内経済の動きについては昨年の水産高の増額で、両漁協の黒字になったのはマグロの水揚げや荒目コンブの単価が高額であったおかげだと考えております。今年度の水揚げ高が下がるようであれば、税金の滞納者が増えるのでは心配だ。また、政策立案ができないのであればシンクタンク等に調査研究を依頼しては。

町長答弁 先ほどの答弁で専門家の意見等を聞きながらというところが正にそこであろうと考える。

再質問 前回質問した竜宮礁の魚礁設置が蟹田、浜奥内、城ヶ沢、川内、長浜、脇野沢に各2100基、平内2500基、野辺地1800基と進められている。市町村の負担が無いのが魅力。今後13t型の竜宮魚礁も考えられているとの事だ

が。

町長答弁 魚礁に関しては、ここ数年実施されていない。今後海づくりというところで漁協と協議をし努力していく。

(記)岩泉

一般質問



加藤 正喜 議員

質問時間 60分

マグロの漁獲枠の見直しを行政、議会が率先して、国等に働きかけを実施しては。

質問

国は、マグロの漁獲枠規制制度を導入、平成30年7月から実施された。大間町に割り当てられた数量は、大型魚196t、3年間平均の65%に抑えられた。漁師からは不満の声が上がり、観光関係者、マグロを提供する飲食店など幅広く影響

グロ漁獲枠の拡大をお願いして来た。行政、議会が率先して国等に働きかける件については、漁協の意向等を聞きながら進めていきたい。

再質問

全国の巻き網漁獲枠は3、100t、一本釣り、はえ縄の漁獲枠は900t弱、このバランスを欠いた配分枠には漁師の方々も納得できないのでは。

町長答弁

が出ているし、漁業組合の経営も危ぶまれる。是非、町長が先頭に立ち、マグロ漁師、町民を巻き込み、漁獲枠の拡大運動を進めて戴きたい。

町長答弁

質問の趣旨は理解できますし、同感です。私も機会あるごとに国、県に対して一本釣り、はえ縄漁法の資源管理が如何に有効かを訴え、優良なマグロが地域経済を支え、日本の観光に貢献して来たかを説明しながら、マ

た。大間マグロを提供する飲食店等が、マグロが手に入らず、又あっても価格の高騰で買えないという。大間観光の危機では。

町長答弁

観光PR等に使えるまぐろも確保できず、地域振興に多大な影響を及ぼしている。漁獲枠とは別枠で漁協に与えてもらえないか、国会の漁業部会の部長に直接訴えております。今後、町として何らかの対策を講じなければいけないという気持ちがあります。

再質問

昨年の6月25日、大間から約200名のマグロ漁師が漁獲枠の見直しを訴え国会に押し掛けた。できれば、町長も是非参加してほしかった。大間のトップがデモに参加して、氣勢を上げることが必要だったのでは。

町長答弁

私自身、当時予定が入っていて参加でき

せんでした。31年の枠がある程度納得できる枠であればと、願っております。

町は、漁業組合の単独事業の助成をもっと増やすことを考えては。

再質問

6月25日の経費の内、260万円を町が補助している。

組合側としては大変有りがたかったと思いますが、組合単独事業の、生活改善、無線局助成金、密漁監視費用、水産物ブランド事業、アワビ資源管理事業、ナマコ放流事業等の事業に町は4割を助成しているわけですが、今の漁業組合に6割の負担はきつい。

もっと割合を増やせないか。

町長答弁

組合からいろいろな事業の補助申請がありますが、検討しながら補助金の決定をしてい

る。又、漁港、港湾の整備等で町から投資されています。町が出来る事業と、漁協の下部組織等のやる事業との色分けは当然出てくる。

再質問

マグロ、イカ、前浜の海藻類が駄目、一番大事な食物連鎖が出来ない状態にある。この危機的狀態を打破するためには、知恵とお金が必要です。町が視点を変えてリーダーシップを取り、進めてもらいたい。

町長答弁

漁協経営をどうしていくか、浜の活力プランの中で漁協と町が知恵を出し合い、協議しながら計画策定等を始められています。海を取り巻く環境が大きく変わり、地先の漁業の復活、再興には、専門的知識と、漁師の方々の長年の経験等の意見をまとめながら、議論することが必要と考えております。(記)加藤

100号記念

平成6年5月31日、大間町議会だより第1号が発行された。

発行当時、編集委員会副委員長を務められた、竹内弘議員から発行までの苦労話や、なぜ発行するに至ったか等、聞くことができたので、ご紹介したい。

「平成5年、定例会議で議会だよりの発行を提案され、半年後の定例議会に於いて、編集委員会発足を賛成多数により可決した。平成6年、金沢弘康町長の英断で、委員会への予算が付けられ、その後、正式に編集委員の選出作業に着手。委員には3常任委員会から各2名の合計6名とした。

総務企画常任委員会から、広谷久氏、船水慶一氏。

産業建設常任委員会から、稲葉清一氏、竹内弘氏。

文教厚生常任委員会から、清水潔氏、熊谷ヒサ子氏の6名。

平成6年3月31日の編集委員会に於いて、委員長に船水慶一氏。副委員長に竹内弘氏を選任し、正式に発足した。発足したものの、住民に何を取り上げ、

どうお知らせするか等々、何もわからず大変苦勞をした。当時、すでに議会広報を発行していた佐井村議会、風間浦村議会及び、県地方課に教えと協力を頂き、何とか第1号を発行することが出来た。

尚、船水委員長の提案で議会だよりのネーミング(表題)を「岬の光」とし、副題に大間町議会だよりとした。

当時、大間町では原子力発電所の建設計画が大詰めを迎え、住民の間でも賛成派、反対派との間で不穏な空気が流れ、町を二分して



いた時期でもあり、議会活動状況を住民に正確に知らせる必要があったと言う。

何故ならば、議員が個人的に住民に話す事がバラバラで、議会の決定がないがしろにされていて、住民が議員を信用できないと、発言する人が多くなつたことに機縁する。」と竹内弘議員が教えてくれた。

第5号で委員長が竹内弘議員に変わり、ネーミング(表題)をお



※当時の議員の方々と、すでに鬼籍はいられている方のご冥福と、ご尽力に衷心よりお礼を申し上げます

初刊発行から25年

おま議会だより(副題に岬の光)に変えた。

初代委員長船水氏の「岬の光」を消さないうれとの強い要望で今現在も、このネーミングは変えていない。

議会だよりの使命は、議会の審議運営及び活動状況の報告と、町民と議会を結ぶパイプ役を担うことにあると思うが、読んで頂けないと使命が果たせない。分かりやすく、読みやすい広報、手に取っ

てページをめくって戴くため試行錯誤して来た。6号から年1回だが、表紙をカラーにしてみたり、44号からは、

毎号表紙と最終ページをカラーにして、町民の関心を引く努力をしてきたし、内容の充実を努め、それまで暗いブルー系だった見出し等も、54号から明るいオレンジに変えた。

時代の変化とともに議会広報の作成等も変わってきたことに対応

するため、県の広報研修会に委員全員が参加をして勉強し、全国議会広報研修会に毎年委員2名が参加して研修を受けている。他の市

町村の議会広報の多くは、議会事務局が作成しているが、大間議会広報の特徴として記事の作成を、広報委員が担っていることにある。記事を書くためには議会活動に真摯に取り組む努力が必要だが、自分のためでも

あると認識し、今後とも、広報委員が責任をもって記事を書くことを、変えてはならないと思う。
(記)加藤



第11回

全国原子力発電所立地議会サミット参加

平成30年10月30日[火]～31日[水]

品川プリンスホテル

第1日 10月30日[火]

第2日 10月31日[水]

開会式

会長あいさつ

実行委員長あいさつ

来賓祝辞

経済産業省 様

文部科学省 様

内閣府 様

原子力規制庁 様

全国原子力発電所所在市町村

協議会 様

来賓紹介

国会議員 様

基調講演

[エネルギー基本計画と

原子力発電]

講師 資源エネルギー庁

小澤典明 様

分科会

第1分科会

原子力政策と地域振興

第2分科会

低炭素社会と原子力のあり方

第3分科会

原子力発電所の再稼働と

原子力防災体制

第4分科会

核燃料サイクルと

放射性廃棄物の中間貯蔵・

最終処分

第5分科会

福島原発事故被災地域の

再生と各立地地域の

廃炉計画に対する地域振興



全体会

分科会報告

第1分科会

第2分科会

第3分科会

第4分科会

第5分科会

国からのコメント

閉会式

大会宣言

次期開催地代表あいさつ

東海村議会議長

大内則夫 様

閉会のあいさつ

隔年で行われている全国原子力発電所立地議会サミットが東京品川プリンスホテルで開催され、大間町議会からも議員9名と事務局が参加しました。

福島原発事故以来遅々として進まない原子力発電所の運転再開と、これから考えられる諸問題に対する対策、将来の廃炉計画に対する諸問題等、一日のサミット会議で結論がでるわけもありませんが、共通の課題をかかえる地方議会議員が集結し、勉強しながら意見交換できたことは大変有意義でした。

サミット宣言のなかには、それぞれの分科会から出された課題として、

*原子力政策は国民が一致団結しないと進まない、国が根本的に考えを変え説明責任を果たし、国民理解を得るべき

*新しい技術開発。技術革新は国においてしっかりと後押しをしてもらいたい

*再生可能エネルギーも含め、ベストミックスが今の日本の取るべき道であること

*防災対策については、災害者への配慮、受け入れ態勢など、国や県の関わりを強化し、広報体制の充実をもとめること

また、我々は、原子力発電所立地地域の国策への貢献に対する労苦が報われる社会の実現を切望して閉じた。

(記)宮野

新年明けましておめでとうございます。

寒暖の差が激しい今日この頃、皆さんは風邪などひかず元気でお過ごしでしょうか。

大間は漁業の町です。温暖化のせいか時化が続いています。漁の方もうまくいってません。

平成の時代も今年で最後になります。新しい年が皆さんにとって良い年でありますよう心から祈っております。

インフルエンザの流行の時期でもありません。どうか体調には十分注意され健康で過ごしてください。皆さんのご健勝をお祈り申し上げます。

(記)竹内勝雄

編集後記

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 昭一

宮野 弘